

第4回連絡協議会の主なご意見一覧表

1 提案書に関することについて

NO	委員名	区分	主なご意見	提案書への反映
1	菊池委員	ご発言	【議事録P.8 1回目】 ライフサポートファイルについてをどう理解して、どう使っていくのか、勉強会が必要であると思います。	【P.15 (1)3段落目】 「さらに有効に活用する観点から～」を挿入
2	柿沼氏	ご発言	【議事録P.10】 診断よりも支援をどうするかについて、関係者がどのように共有するのかがというのが大事です。共通認識がないと、支援の目標がどこにあるのか、それぞれの機関ごとの判断によることになってしまいます。	【P.15 (2)2段落目】 「また、これら検査結果等を～」を挿入
3	菊池委員	ご発言	【議事録P.9】 その子をどう支援するのか考えるときには、その子をどう見るかが大事です。関係機関では、問題行動をつぶそうとすることにより、他の問題行動がでてきてしまい、何も解決しないような事例を聞いています。	【P.15 (2)3段落目】 「その際、本人の苦手分野や問題行動を～」を挿入
4	小林委員	ご意見票	現在、成人の発達診断ができる医療機関は非常に少ないことから、障害の理解～手帳の取得等に時間がかかっている状況があります。 就労支援を効果的に進めるため、発達診断のできる専門医療機関が増えれば一番良いのですが、難しい場合には、千葉市発達障害者支援センターが診断の機能をもつということはどうでしょうか。	【P.16 2段落目】 「なお、本市はもとより、全国的にも～」を挿入 ※支援センターでの対応は困難であると考えています。
5	久保田委員	ご意見票	子どもや成人の二次障害が出て、あばれたとき等の一時保護をしてくれる機関等の検討をしてほしい。(緊急時の相談体制と、一時的保護の体制整備)	【P.17 5段落目】 「なお、特に発達障害については～」を挿入
6	久保田委員	ご意見票	千葉県下の中核地域生活支援センターすけっと等が行っている業務を千葉市内でもやってくれるところがほしい。(複合的問題を抱えるケースの相談受理と、関係機関とのコーディネート役)	【P.17 5段落目】 「なお、特に発達障害については～」を挿入
7	久保田委員	ご意見票	親のメンタル面のサポート(カウンセリング)をしてほしい。	P.17の図への記載と、P.19「個別支援について」の「③親への支援」に包括されるものと考えています。
8	中田委員	ご発言	【議事録P.8】 PEP-Rに関しては、療育相談所と連携しながらの対応を検討しています。また、市障害者職業センターやキャリアセンターにも、職業に関する適性検査がありますので、支援センターと就労系機関が連携して、どうすればできるのか、一緒になって考えていきたいと思います。	【P.19 (1)4段落目】 「併せて、これら専門的手法の導入にあたっては～」を挿入
9	菊池委員	ご発言	【議事録P.8 2回目】 PEP-RやAAPEPについては、どこで実施できるか、支援センターがつかんでいけば良いと思います。AAPEP等がどこで実施できるか支援センターの方で調べていただいて、支援センターから検査をお願いする可能性があることを広めていくことも大事かと思えます。AAPEPは、県の支援センターでは特別な人に対しては実施しています。少なくとも困難ケースでは実施できるような体制を望みます。	【P.19 (1)6段落目】 「一方で、すでに発達障害に関する専門的手法～」を挿入
10	鈴木(正)委員	ご意見票	1 発達障害に関する正しい知識の取得、啓蒙活動 P12の(2)個別支援の考え方、P16(1)個別支援における専門性の向上の前に、発達障害に関する正しい知識(長期的経過の見通し、支援事例等含め)を関係する職員が習得することが必要と思われる。 そのためには、『「発達障害者支援センター運営事業の実施について」の取り扱いについて』及び平成19年12月の報告書P7～8に記載されているように、パンフレット等を作成し、発達障害に関する正しい知識を習得することが重要と思われる。また、関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修を行うことも重要かと思われる。 関係職員等が正しい知識を習得しなければ、個別支援及びペアレントサポート等が行えないのではないかと。また、発達障害の障害種別も多様であり、特に幼児期、学童期における早期診断の難しさもあると思われ、場合によっては障害受容も誤った方向になり、支援方法等も異なり、当事者及び家族の今後の生活等に影響することも考えられる。	・パンフレットの作成 厚生労働省ですでに作成しているものがあるほか、千葉市地域自立支援協議会においても、発達障害に限らずに、さまざまな障害種別の対応に関するガイドブックを作成する予定とされているため、本提案書への挿入はしないこととします。 ・普及啓発及び研修 【P.21 (3)2段落目】 「障害福祉関係機関に対する研修への講師派遣の充実はもとより」を挿入
11	杉田委員	ご発言	【議事録P.10】 公的機関がやれること、家庭がやれること、社会がやれること、それぞれが役割分担をしながら良い方向にもっていきたいと思います。	【P.22 5段落目】 「行政機関や発達障害者支援に係る関係機関～」を挿入

※ご発言については、議事録より抜粋して必要に応じて要約し、ご意見票によるものはそのまま記載。

2 ライフサポートファイルに関することについて

NO	委員名	区分	主なご意見	対応
1	加瀬委員	ご発言	<p>【議事録P.7】 個別指導計画は、一人ひとりの子どもたちの現状と今後の対応策を担当が作るものです。特別支援学校、学級の生徒たちは一人ずつ作りますが、通常学級の子どもたちについてはすべての子どもたちの作成に対応できていません。つまり、個別指導計画の写しを求められた場合、対応ができないことがあります。</p> <p>個別支援計画については、ライフサポートファイルと同様のものですが、作成していない先生、学校もかなりあるのが現状です。また、小学校と中学校では教育環境がかなり違いますので、このような資料を提供は困難に感じます。</p> <p>保護者が了解している発達検査の結果のようなものの写しを差し上げることはできますが、ファイルの書き方については、もう少し考える必要があると思います。</p>	<p>●事務局案 ライフサポートファイルについては、平成21年度から22年度にかけて、本連絡協議会委員の意見を十分に聞きながら作成されたものです。</p> <p>運用面の問題については、提案書(案)中、今後の方向性にもあるように、関係者による勉強会等を通じて改善の余地があるものと考えています。(P.15(1)3段落目)</p>
2	杉田委員	ご発言	<p>【議事録P.7】 ライフサポートファイルを一つの突破口として、何が優先事項なのかを学校にも考えていただきたいと思います。医療や福祉では、個別的な支援をベースにし、学校は集団をベースにしていると思います。</p> <p>これは極めて大きな問題で、発達障害児は学校にいる時間が多いわけですから、学校が個別支援をやることにならざるを得ないでしょう。集団の観点も必要ですが、個別の、つまりインディビジュアル・エデュケイショナル・プランニングをやっていただきたいと思います。是非こういった考え方を普及していただきたい。</p> <p>また、このファイルが、学校関係で受け入れられていない事例も聞いています。これは母子手帳の一生版というイメージです。母子手帳まではいなくても、必要なお子さんにはこのようなファイルを作り、就労するまでもっていくことによって、医療や福祉の現場はとても助かるわけです。これに学校側も協力するような体制が望まれます。</p>	
3	碓氷委員	ご意見票	<p>ライフサポートファイル第三章の目次にある資料の写しにおいて、学校や施設では、「個別の指導計画、個別支援計画等」があります。通常学級及び特別支援学級においては、「個別の指導計画」作成は義務化されていないため、保護者から学校に提示を求められても困ると思います。</p> <p>一方、作成が義務付けられている特別支援学校においては、内容面においては、個人情報満載であることから、そのまま資料ということには疑問が残ります。</p> <p>そこで、現在、特別支援学校で策定義務のある「個別の教育支援計画」であれば、資料として掲載可能と思われます。このように、学校が出す資料については色々と検討が必要です。</p> <p>今後、どこの部署で検討を進めていくのかを事務局より提示して頂けると助かります。これを受けて、学校現場としては、ライフサポートファイルに関する保護者からの要請に「現在検討中です…」などの返答ができます。</p>	

